

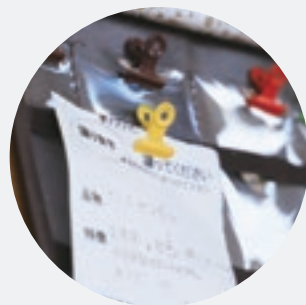
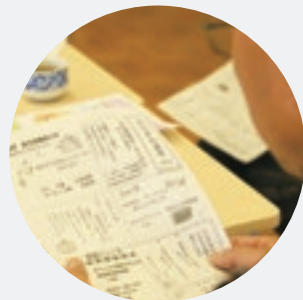
Focus



本日のコーヒー看板
賛同してくれる人が
作成してくれた看板。今日のコーヒー
とお菓子を掲載でき
るようになった。

えんがわ通信

えんがわで起こった
出来事や、イベント
情報を載せる。演劇・
芸能などは、協力者
が催してくれる。



「譲ります」掲示板
公民館入り口には、
譲りたい品物をメモ
書きして掲示できる
スペース。交流につ
ながっている。

地域での困りごとを共有して、解決方法を考えましょう
助け合い・支え合い とうおん（川内）



▲えんがわの話を聞く協議体の皆さん。
活動や資料は全て自分たちで作成する。

えんがわの取材は、地域包括ケアシ
ステム推進の一環で行われている「生活支
援体制整備事業協議体」の活動に同行し
たものです。この活動は、地域で活動す
る人たちが集まって、課題や解決策を持
ちより広げていくものです。

興味のある人は下記までお問い合わせ
ください。

図 長寿介護課（☎ 964-4408）

地域包括支援センター（☎ 955-0150）

新しい顔も来やすい場所に

「えんがわ、今日やりよん
かえ？」。気にかけてくれる
声が届く中で、新しい課題
も見つかったそうです。「家に
いる方にとって足る運ん
でもらうか。今は5人ほど送
り迎えなどしています。集
まる人が固定されてしまい、
入りにくいと思われるといけ
ないので、どうにかできない
か考えました」。現在は、え
んがわ通信というお便りを

発行して、横灘団地284世
帯全員に回覧板で回していま
す。その甲斐あって、取材当
日は新しい人が3人来ってい
ました。「最高年齢は90歳くら
いです。ご自分で歩いて来ら
れるので驚いていますし、行
きたいと思ってくれる場所が
できているということなので、
自分たちも嬉しいですね」と
実感をお話しました。

「理想は、お世話役がいな
くても『えんがわ』が開かれ
ることだと思います。今は自
分たちが楽しむことが長く
続けるコツ。できるところ
までやっていきたいですね」と
話す3人の顔からは、希
望が伝わります。

えんがわという名前に込
められた、「ちよつと行つて
お話できる場所」「縁」が
輪になる場所」が横灘
団地に根付くまで、3人の
笑顔が曇ること
はありません。

地域コミュニティが少なく
なっている近年、横灘団
地で交流の場所をつくらうと
取り組む人たちがいます。川
内地区、さくらの湯を降りた
先を曲がると広がる閑静な住
宅街。横灘団地に住む泉やよ
いさん、中島邦子さん、渡部
綾子さんは、公民館を開放し
た交流の場「えんがわ」を主催
運営しています。

3人はご近所で、共に老人
クラブ女性部。年齢も近いこ
とから意気投合し「横灘団地
の中で何かできないか」と話
あつていたところ、「地域の皆
さんが気軽に集まれる場所を
つくらう」と発案したのが始
まりです。「良い取り組みなの
で自治会も協力しよう」と、
竹葉光夫区長は公民館を
開放して場所を提供すること
に賛同。今年の7月から水曜
・日曜の週2回、朝9時から12
時までの時間を利用して、「え
んがわ」がスタートしました。

つながりが力に

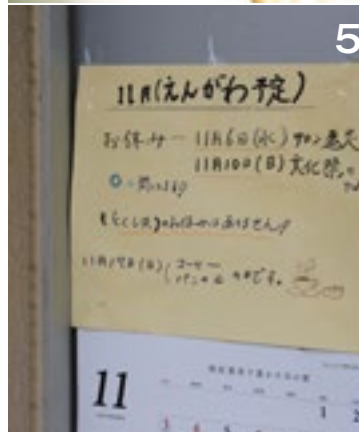
わづかながらの予算で、お
茶やお菓子を出していると、
知人の紹介や賛同する人が声
をかけてくれるようになりま
した。「今度、ぶどう持つてい
くけんね」「パン焼けるから
持つていくね」と声をかけて
くれた時は本当に嬉しかった
そうです。「人と話すこと、つ
ながりを持つことの大切さを
呼びかけました。開催する曜
日に合わせて、移動スーパ
ーも来てくれるようにお願い
したら、快諾してくれたんで
す」と3人は笑顔をこぼしま
す。口コミは広がり、今では
毎回15人ほどが利用してくれ
るそうです。事前に用意して
いた椅子では足らず、使えそ
うなものを譲ってもらったり、
寄付を受け付け、備品を整え
ていきました。



3



1



5



4



2

1_ えんがわを運営する3人。
左から中島さん、渡部さん、
泉さん／2_ 取材時も笑い声
が響いた／3_ 賛同してくれ
る人からいただいた花／4_
最高年齢の方（写真右）は歩
いて参加される／5_ 公民館
入り口には月の予定表を貼る

笑顔 晴れやか えんがわに咲く